

御堂筋「水と風のみちまち」推進協

なにわ八百八橋橋洗いでシンポ

NPOなど大阪の住民団体が組織する御堂筋「水と風のみちまち」推進協議会(須知裕曠代表世話人)は25、26の両日、「なにわ八百八橋橋洗いをテーマにシンポジウムを行うとともに、地域住民らと橋洗いをし、美しい川やまちづくりについて考えた。橋洗いは、東京・日本橋で43年も続く伝統行事を見習って実施。同協議会では今後、200余の大阪の橋を対象に活動を展開し、この運動を盛り上げることにしている。

25日に大阪市北区中之島の大阪市中央公会堂で開かれた「第2回掘り興こそうー大阪のDNAシンポジウム」では、藤本貴也国土交通省近畿地方整備局長が「橋洗いと関西西元気宣言」をテーマに基調講演。近畿の経済情勢について、各種統計データを基に紹介。関西国



道上氏

このあと、朝日放送アウンサーの道上洋三氏をコーディネーターに、松村博敏高速道路管理技術センター理事、谷平勉近畿大学理工学部教授、永森昭紀名橋「日本橋」保存会事務局長、河

際空港の国際線の好調さや阪神高速道路の大型車通行量が増加傾向にあるなど、近畿経済は緩やか回復基調にあることを指摘。官から民の時代の流れの中で「民力が強く学術文化の集積、多様な産業構造を持つ関西のポテンシャルは高い」と述べるなど橋洗いを通じて人々の交流の輪が広がっていき、橋の歴史に学ぶこ



シンポジウム会場

を求めた。

授は、橋の歴史に学ぶこ

美しくまちを養います



住民らが参加



藤本局長自ら汗を流す

26日の橋洗いは、大阪府役所北側の堂島川に架かる水晶橋を対象に行われた。藤本局長も子どもたちに混じって汗を流した。また、大阪建設業協会からも浅沼健一会長、前川寛常務理事らも参加。近くの西天満小学校児童およびPTAらを含め約150人が、たわしやデッキブラシを使って、橋面の汚れを落とすた。



水晶橋

「橋のファシリティ」で過ごした小篠氏は、川の設置を示唆した。大阪市の建設局長のまちは美しくなければならぬと述べた。道上氏は「橋をつくらせて技術者たちの思いが住民に伝わっていないのは残念だ。どんな技術を使っても、どこに苦勞があったのかをもっとアピールすべきでは」と述べ、橋にかける思いを伝える努力を訴えた。

架橋の苦勞、技術的アピール必要